

## [馬術] 関東学生馬術

### 沼尻 障害飛越で優勝 団体では総合3位に

関東学生馬術競技大会が6月22日から25日までJRA馬事公苑で行われ、専大は障害飛越、馬場馬術で2位、総合馬術(調教・耐久・余力)では3位となり、3種目総合3位となった。

初日の障害飛越で沼尻孝夫(経営4・取手松陽高)が個人優勝を決めて快調な滑り出しを見せると、馬場馬術でも2人が上位に残って希望をつないだ。最終日の総合馬術は上位陣に大きなミスは見られず、しのぎを削り合う試合展開。結果は、わずかな差が勝敗を分けたが、最後まで勝負の行方が分からない、手に汗握る熱戦を繰り広げた。

上位校はほとんど力の差が無かった。そこから一步抜け出し、秋の全日本学生で勝利を手にするためには、「主力である上級生の培ってきた経験を、どこまで「熟練」させられるかが今後の課題」と富沢健悟監督は言う。

西山慶太主将(商4・玉野高)は「最後まで勝負できたということが重要な意味を持つ。自信と悔しさの両方が残る試合だったが、この思いを秋にぶつきたい」と語った。接戦での勝負は選手を大きく成長させる。この経験を次に生かしてほしい。



▲障害飛越で個人優勝の沼尻とゴールドスター号

(文・写真とも 加藤 未希・文2)

## [バドミントン] 関東学生女子

### 井上が準優勝 ダブルス 木村・梨木組3位

関東学生選手権が5月20日から6月20日まで、東京都・立川市泉体育館ほかで行われ、女子シングルスで井上春奈(商1・埼玉栄高)が準優勝。女子ダブルスでは木村綾(経営3・金沢向陽高)・梨木春花(商3・金沢向陽高)組が3位入賞を果たした。

「調子が上がりが切らないまま大会入りした」という井上だが、試合を重ねるごとに復調を見せ、準々決勝、準決勝ともに2―0。決勝では関谷(早大)と対戦。第1セットは互角の試合展開が続き、12―13。この時点ではまだ優勝の二文字が見えていたが、第2セットに入ると動きに精彩を欠き、2―11で敗退。試合後井上は敗因として「スタミナ切れ」を挙げた。しかし、優勝こそ逃したものの、大きな自信を得たに違いない。

連覇のかかる木村・梨木組は、危なげなく準決勝へ進出し、伊東・内藤組(日体大)と対戦した。しかし本来の力を出し切れず、セットカウント1―2で敗れた。「自分たちの良いリズムが出せなかった」。梨木は試合後このように語り、悔いが残る大会となったようだ。この経験を生かし今後の活躍につなげてほしい。

(橋本 麻未・経済3)

## [ゴルフ] 全国大学対抗戦

### 男子5位 トピーカップへ 女子は7位に終わる

6月12から15日まで、北海道苫小牧市の樽前カントリークラブで全国大学対抗戦が行われ、アベック出場の専大は男子が5位入賞を果たしたが女子は7位に終わった。この結果男子は、9月5日から行われるトピーカップ日米大学対抗選手権の出場権を獲得した。

男子は初日3位という好位置につけた。しかし2日目は成績が伸びず順位を下げた。勝又崇之主将(経済4・小山高)は「2日目で順位を落としてしまったのが悔しいです。トピーカップでは優勝を目指して頑張ります」と語った。

初日を5位で終えた女子は、西村麻衣主将(商4・麻生高)を中心に粘りを見せたが、トピーカップ出場権獲得はならなかった。



▲初日、68を出すなど健闘した高橋賢(経営2)のドライバーショット

(澤田 和輝・法3)

## [レスリング] 東日本新人戦

### 細越・馬場ともに優勝 小林は3位入賞

6月15日から17日まで、東京・駒沢体育館で東日本学生春季新人戦が行われ、フリースタイル66kg級の細越孝紀(経営2・光星学院高)と96kg級の馬場祐太郎(経営1・島原高)が準優勝に輝いたほか、グレコローマンスタイル84kg級の小林敏雄(経営2・上田西高)が3位入賞を果たした。

細越は「リードしていたのに弱気になって逆転され、精神的に弱いと感じた」、馬場は「体力不足を痛感した」と語り、小林も「これからは試合の組み立て方をうまくできるようにしたい」とそれぞれ課題を挙げた。

今回はあと少しというところで悔しい思いをしたが、これを糧に練習を積み重ね、結果につなげてほしい。



▲左から馬場、細越、小林

(文・写真とも 清水智之・ネット情報3)

## コンディショニングセミナーを開催

7月8日、「夏の自己管理」をテーマとした第1回コンディショニングセミナーが生田キャンパスで開催され、約600人が参加した=写真。夏期休暇中の練習や合宿で起こりやすいケガや事故の予防と対処法、セルフケアの習得が目的。このセミナーが今後、体育会全体の好成績へとつながることを期待している。



## 厚い世界の壁

- ゴールデングランプリ—稲葉、善戦も及ばず
- 世界学生選手権—北村は初戦突破ならず

今年から国際レスリング連盟(FILA)が開催するゴールデン・グランプリのファイナル大会が6月25日、アゼルバイジャンのバクーで開催され、フリースタイル55kg級に稲葉泰弘(経営3・霞ヶ浦高)が出場。善戦したものの世界の壁は厚かった。

初戦から世界チャンピオンであるウズベキスタンのディルシヨド・マンスロフと対戦するもフォール負け。「一度も勝っていないので満足できない」と大会を振り返り、世界チャンピオンとの対戦について「強い。何もさせてもらえなかった」と、悔しそうに語った。

また6月19日、世界学生選手権がモンゴルのウランバートルで行われ、フリースタイル120kg級に北村克哉(商3・日本工大付属東京工高)が出場したが、初戦突破はならなかった。

「外国人選手はパワーはあるがスタミナがないので、後半に勝負をかけたが、前半でポイントを取られすぎたので、取り返しがつかなかった」と悔しそうに振り返った。

国内外で戦い続けている専大レスリング部の活躍に今後も目が離せない。

※詳しくは専大スポーツ編集部HPをご覧ください。

(清水 智之・ネット情報3)

◀国際大会出場選手▶

堂下 直樹(経営1・鹿児島南高)スロバキア・スロベニア水球国際大会(7月2～16日＝スロバキア・トレビゾン、スロベニア・コパー)

Age87(1987年以降生まれ)日本代表